

被災地の現状ネットで

南三陸を記者ら見学

東日本大震災の被災地の現状をソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）やインターネットメディアで積極的に発信することを目的に、ネットメディアの記者らが23日、南三陸町の震災遺構などを巡った。

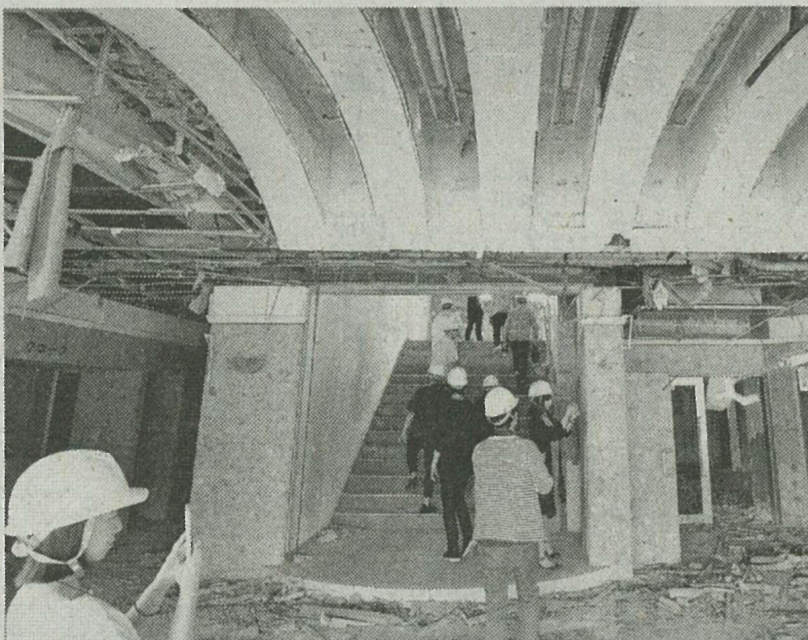
参加者は同町のホテルが

運行する「語り部バス」で町内の各地を訪問。民間の震災遺構「高野会館」では、

津波に襲われた館内や、多くの人が避難した屋上を見学し、スマートフォンなどで撮影。その場でSNSで発信していた。参加者からは「震災当時の状況を残す必要がある」「SNSで復興（の進展状況）を定点観測してはどうか」といった意見も出された。

東京都千代田区から訪れたウェブニュース番組のアンカーでアパレル会社経営

のハヤカワ五味さん（22）は「国内では災害が多い。被災地を見ていけると、伝えることも違ってくる」と話していた。



津波が襲った「高野会館」の内部を見学し、スマートフォンなどで撮影する参加者たち（23日、南三陸町で）